

Ei Arakawa-Nash:



荒川ナッシュ医 🍓 ペインティングス・アー・ポップスターズ

Ei Arakawa-Nash: Paintings Are Popstars

2024年10月30日[水]—12月16日[月] 国立新美術館 | 企画展示室2E 東京六本木

October 30–December 16, 2024 The National Art Center, Tokyo | Special Exhibition Gallery 2E

観覧料 無料 休館日 毎週火曜日 Admission Free Closed Tuesdays

主催 国立新美術館 協立 アカイシイギャラリー
Organized by The National Art Center, Tokyo With the cooperation of Take Inoh Gallery

The National Art Center, Tokyo

荒川ナッシュ医 | ペインティングス・アー・ポップスターズ Ei Arakawa-Nash: Paintings Are Popstars

2024年10月30日[水]—12月16日[月]

国立新美術館 | 企画展示室2E

観覧料 無料 休館日 毎週火曜日

開館時間 10:00–18:00 | 金曜・土曜は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

主催 国立新美術館 協力 タカ・イシイギャラリー

新 THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

お問い合わせ 050.5541.8600 [ハローダイヤル]

<https://www.nact.jp>

本展は、2000年代から国際展や美術館でパフォーマンス・アートを発表してきた米
国在住のアーティスト、荒川ナッシュ医のアジア地域においては初めての美術館での
個展です。「Paintings Are Popstars」をタイトルとし、一作家の個展でありながら、
荒川ナッシュに協力する20数名の画家による絵画が会場内に「登場」します。それ
ぞれの絵画を存在感のあるポップスターと見做し、荒川ナッシュはその絵画のア
ティテュード(姿勢)から発案された協働パフォーマンスを発表します。

2021年にロンドンのテート・モダンで発表された、美術館の床に来館者が自由に
絵を描ける参加型の作品《メガどうぞご自由にお描きください》から始まり、アート
活動と子育ての両立にまつわる絵画の空間、絵具をトリートメントとして使うクア
な美容アクション映像、都市と色のスペクトラムに関する作品、絵画たちが交互に
歌うかのような空間、20世紀の戦争や移民画家の歴史と国立新美術館の空間を
結ぶ作品、福島やドイツの空を飛ぶ風絵画、そして絵画が哲学を語りかけるクラ
ブのような空間などが続きます。

子供、絵画、歴史、音楽、身体、会話、そしてユーモアがアンバランスに作用しあう
荒川ナッシュの展覧会。国立新美術館の天井高8m、床面積2,000m²の空間で、
荒川ナッシュとその協働者によるライブ・パフォーマンスが定期的に開催されます。
さらに、「新美に来る観客と出会いたい」という荒川ナッシュは、「短くも親密な」展
覧会ツアーも企画しています。国立新美術館においては2007年の開館以来初と
なるパフォーマンス・アーティストの個展をぜひご堪能ください。

本展には、ミヨコ・イトウ、桂ゆき、河原温、国吉康雄、丸木俊(赤松俊子)、アンリ・マティス、
ルイス・ニシザワ、白髪富士子、田中敦子、吉原治良、などの20世紀の画家から、ケ
ルスティン・プレチュ、レイディ・チャーチマン、ニコール・アイゼンマン、ユタ・クータ、南川
史門、オスカー・ムリーリョ、シルケ・オットー=ナツプ、ローラ・オーエンズ、ゲラ・パタシュリ、
セス・プライス、トレバー・シムズ、エイミー・シルマン、八重樫ゆいなどの現代の画家の
作品が展示されます。また映像作家の斎藤玲児、デザイナーの森大志郎も、本展
に参加します。

企画 米田尚輝 [国立新美術館主任研究員]

展覧会開幕間近には、
さらなるコラボレーション企画が
発表されます!

●
会期中は詳細なスケジュールが
随時更新されますので
美術館ホームページから
詳細をご覧ください。



報道関係の問い合わせ先

国立新美術館 広報室

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

Tel: 03-6812-9925

Fax: 03-3405-2531

E-mail: pr@nact.jp

<https://www.nact.jp/pr>

作家コメント

国立新美術館ではパフォーマンス・アーティストの大規模な個展が初めてだという。心のどこかにあったのは、2011年の高嶺格展、近年のdumb type展やChim↑Pom展の存在、今年の夏の内藤礼展や島袋道浩展。白川昌生さんの言う日本のパフォーマンスの「うねり」がZ世代も続きますように！

そして国立の美術館では施工屋さんの入札のために、半年前には細部まで決定しないといけない難しさがある。ストレスフルな矛盾が生まれたらどうしよう。なぜならパフォーマンス・アートは実際に始まってみて、観客の前で生成中に成長するのです。

わたしの人生で間違いなく一度きりのこの展覧会。ユーモラスにお届けしたい！

荒川ナッシュ医

荒川ナッシュ医(あらかわなっしゅ・えい)

1977年福島県いわき市生まれ。1998年からニューヨーク、2019年よりロサンゼルスに居住する米国籍のクイア・パフォーマンス・アーティスト。様々なアーティストと共同作業を続ける荒川ナッシュは、「私」という主体を再定義しながら、アートの不確かさをグループ・パフォーマンスとして表現している。現在、ロサンゼルスのアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン、大学院アートプログラム教授。

近年の主な個展に次の会場でのものがある。クンストハレ・フリアール・フリブール(フリブール、2023年)、テート・モダン(ロンドン、2021年)、アーティスト・スペース(ニューヨーク、2021年)等。

グループ展に次の会場でのものがある。センター・フォー・ヘリテージ・アーツ&テキスタイル(CHAT)(香港、2024年)、ジャン大公近代美術館(ルクセンブルク、2021年)、ホノルル・ビエンナーレ(2019年)、ミュンスター彫刻プロジェクト(2017年)、ベルリン・ビエンナーレ(2016年)、光州ビエンナーレ(2014年)、ホイットニー・ビエンナーレ(ニューヨーク、2014年)等。パブリックコレクションに、ハマー美術館(ロサンゼルス)、ニューヨーク近代美術館、ルートヴィヒ美術館(ケルン)、セラルヴェス現代美術館(ポルト)、ワルシャワ近代美術館等。



01

ユタ・クータの
《Demonic Options》(2008年)を持つ
荒川ナッシュ医

Ei Arakawa-Nash holding
Jutta Koether's *Demonic Options* (2008)

Photo: Ricardo Nagaoka
Courtesy of the artist



02

●
荒川医
《ネメシス・ペインティング(猫なで声のパフォーマンス!)》
2022年
デビッド・ズワナー、ニューヨーク

-
Ei Arakawa,
NEMESIS PAINTING (PURR...formance!)
2022
David Zwirner, New York

-
Photo: Santiago Felipe
Courtesy of the artist and David Zwirner, New York



03

●
荒川医
《メガどうぞご自由にお描きください》
2021年
テート・モダン、ロンドン

-
Ei Arakawa
Mega Please Draw Freely
2021
Tate Modern, London

-
Photo: Rikard Österlund
Courtesy of the artist and Tate Modern, London





04

●
荒川医
《メガどうぞご自由にお描きください》
2021年
テート・モダン、ロンドン

—
Ei Arakawa
Mega Please Draw Freely
2021
Tate Modern, London

—
Photo: Rikard Österlund
Courtesy of the artist and Tate Modern, London



05

●
荒川医
《WEWORK BABIES (11 Cortlandt Alley)》
2019年
アーティスト・スペース、ニューヨーク

—
Ei Arakawa
WEWORK BABIES (11 Cortlandt Alley)
2019
Artists Space, New York

—
Photo: Paula Court
Courtesy of the artist and Artists Space, New York



06

●
荒川医
《Fortune (ギュスターヴ・クールベ「こんにちはクールベさん」1854年)》
2019年
ファブル美術館、モンペリエ

—
Ei Arakawa
Fortune (Gustave Courbet, La rencontre, 1854)
2019
Fabre Museum, Montpellier

—
Photo: Marc Damage
Courtesy of the artist and
Fabre Museum, Montpellier



07
●
荒川医
《Cologne of the Maghreb (Bodyphilia Song)》
2016年
ルートヴィヒ美術館、ケルン
-

Ei Arakawa
Cologne of the Maghreb (Bodyphilia Song)
2016
Museum Ludwig, Cologne
-

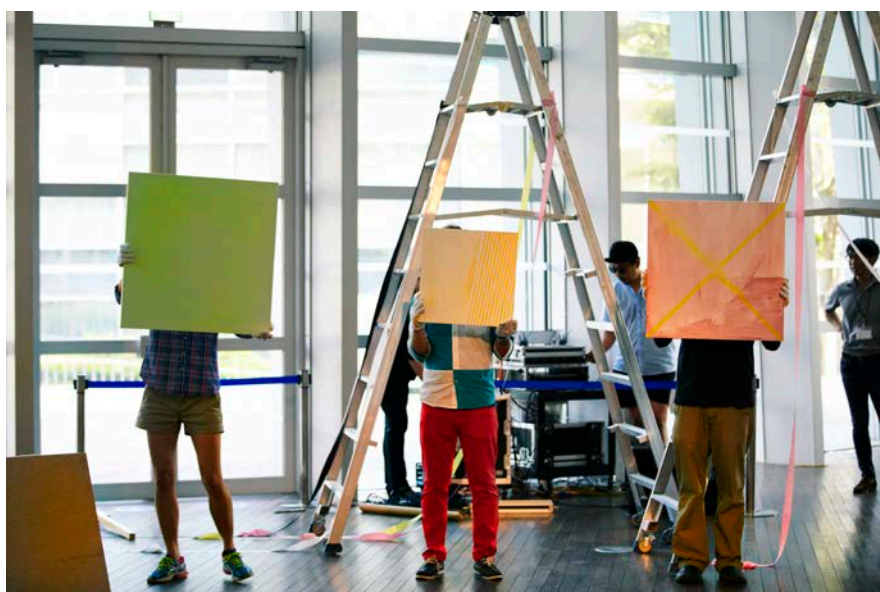
Photo: Mike Schlömer
Courtesy of the artist and
Museum Ludwig, Cologne



08
●
荒川医
《Concrete Escort》
2013年
グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
-

Ei Arakawa
Concrete Escort
2013
Solomon R. Guggenheim Museum, New York
-

Photo: Paula Court
Courtesy of the artist and
Solomon R. Guggenheim Museum, New York



09
●
荒川医×南川史門
《三角木馬の夕べ》
2013年
国立新美術館、東京
-

Ei Arakawa×Shimon Minamikawa
An Evening with Triangular Horses
2013
The National Art Center, Tokyo
-

Photo: Kenji Takahashi
Courtesy of the artist and
The National Art Center, Tokyo



10
●
荒川医
《Kissing The Canvas》
2012年
テート・モダン、ロンドン
-
Ei Arakawa
Kissing The Canvas
2012
Tate Modern, London
-
Photo: Tate Modern
Courtesy of the artist and Tate Modern, London



11
●
荒川医
《See Weeds》
2011年
レ・ザバトワール、トゥールーズ
-
Ei Arakawa
See Weeds
2011
Les Abattoirs, Toulouse
-
Photo: Marc Boyer
Courtesy of the artist and Les Abattoirs, Toulouse